

# ライド・エイドへの 大きな期待

災害時、バイクの機動力を生かし、情報収集や物資運搬を担う大規模災害対応団員チーム「ライド・エイド」。

消防署とプロライダーが結び付くのは、モータースポーツが盛んな鈴鹿市ならではの。南海トラフ地震や大規模災害での活動を視野に訓練を続けています。



鈴鹿市消防本部次長  
消防監 落合 満弘さん

洗練されたライダーとのより緻密な連携で、救える命を増やしていきます



元プロライダー  
大内田 実さん

プロ経験者ならではの判断力と度胸で、災害時にも普段通りの実力を発揮します



モリワキエンジニアリング所属  
プロライダー 高橋 裕紀さん

レースに向けた練習と同じく、地道な努力で災害時に役立てるよう頑張ります

モリワキエンジニアリングは、二輪・四輪車用パーツの開発・設計、製造・販売を手がける市内企業で、プロライダーも所属。鈴鹿8時間耐久ロードレース（8耐）をはじめとしたさまざまなバイクレースに参加しています。支援部隊設立にあたり、多くのライダーに声をかけると、「やってみたい」という前向きな意見が多く寄せられました。

「バイクの技術を地域のために生かすのはもちろん、一般の人にバイクの利便性を知ってほしい。そんな森脇さんの意見に賛同したのは、現

## 地元企業が立ち上げた バイクの支援部隊

一刻も早い救助・救命が求められる災害時。しかし、地震や火災で倒壊した家屋やがれきが道路を寸断し、救助隊がたどり着けない場合は少なくありません。

そんな危機状況の中で活躍するのが、バイクライダーです。バイクは自動車が行けない細い道や荒れた路面を走行でき、狭路でのすばやい方向転換も可能。悪路

## バイクの操作技術を 地域の人のために生かす

発足当初はボランティア組織として立ち上がった「ライド・エイド」でしたが、森脇さんと鈴鹿市消防本部・中西貞徳前消防長が「具体的などのような活動をしていくべきか」を話し合った結果、一部のライダーが鈴鹿市消防団の一員として活動することを決めました。応急処置などの講習を経たのち、ライダーは鈴鹿市消防団大規模災害対応団員（※）として市から正式に認定を受けました。

災害時には自動車では乗り入れられない地域に向かい、要救助者や火災の有無などを確認。被災状況を消防本部に無線で連絡します。報告を受けた消防本部は状況に応じた必要な人員・資機材を準備して現場へ投入。ライダーとの連携は、早期での避難誘導をはじめ、被災初期段階での消火・救急・救助活動を可能とするなど、ボランティア組織では対応できない多くのメリットがあるのです。

「自分たちのバイクの操作技術を地域の人のために生かせることに誇りを感じます。団員として認められ、使命感が大きくなりました」と話すのは、モリワキエンジニアリング所属の現役プロライダー

走行を余儀なくされる災害時に、抜群の機動力を発揮します。

東日本大震災や熊本地震などの大災害では、実際に多くのライダーが被災地に赴き、現地を駆け回りました。救助だけでなく、物資運搬の面でも活躍を果たしました。

2016年に、神戸市で開催された「バイク・ラブ・フォーラム」で、その活躍を知ったモリワキエンジニアリングの専務取締役・森脇南海子さんは、鈴鹿市でバイク支援隊の立ち上げを思い立ちます。

1. 高橋裕紀さん。過去3回、全日本ロードレースでチャンピオンに輝いています。

高橋さん以外にも、全日本モトクロスチャンピオンの小島庸平さん、全日本トライアル選手権で史上初の6連覇を成し遂げた小川友幸さんなど、国内トップクラスのバイクレイサーが団員として所属。また、2015年に現役を引退した大内田実さんは、8耐に19年連続出場の実績を持ち、「レースで培った判断力や、視野の広さも災害時には役立つはずですよ」と自信をのぞかせます。

「鈴鹿ならではの顔ぶれがそろいました」と続けるのは、鈴鹿市消防本部の落合満弘次長。鈴鹿サーキットがあり、モータースポーツ都市宣言をしている鈴鹿市。市の特性を生かしたつながりが、「ライド・エイド」を生み出しました。

## バイクの活用方法を 鈴鹿市から発信

「ライド・エイド」はまだ出動経験がありません。しかし、大きな被害が予想される南海トラフ地震に備え、悪路走行や無線実習、救急法の各訓練に力を入れています。昨年末には、大規模災害の発生を想定した本格的な情報収集訓練を実施。「日常生活から、地域の地図や地名を頭に入れるようにしています」と高橋さんは災害時に備えています。

情報収集に注力する鈴鹿市消防団大規模災害対応団員のほかに、



パフォーマンスの一つであるハイジャンプで、客を魅了しました



毎年恒例の鈴鹿市消防出初式は、鈴鹿サーキットの国際レーシングコースで開催します。「ライド・エイド」によるパフォーマンスは、グランドスタンドからも観覧可能



1,2. 毎年恒例の「火の夢フェスタ」。出初式同様、ライド・エイドがパフォーマンスを披露します 3. 地面すれすれまでバイクと体を傾けての走行。プロならではのコーナリング技術です 4. 現在19人のライダーが大規模災害対応団員として在籍。最前列の女性が、発起人の森脇南海子さんです

※本業を持ちながら、災害時に非常勤特別職の地方公務員として活動する団員